

第109回
定時株主総会

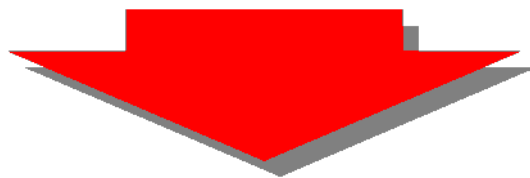
平成27年 6月26日

宇部興産株式会社

平成26年度 経済情勢

世界経済：

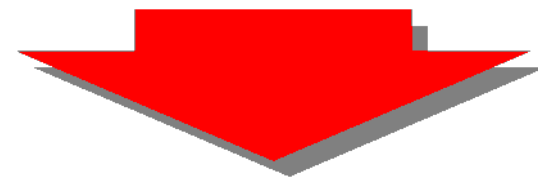
- ・米国：景気回復が続く
- ・欧州：景気持ち直しの動き
- ・アジア：中国で景気の拡大テンポが緩やかに



力強さを欠く

国内経済：

- ・消費税増税の影響により個人消費に伸び悩み
- ・政府による各種政策の効果が下支えする中で、企業部門に改善の動き



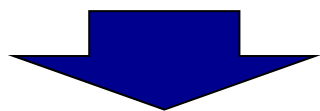
緩やかな回復基調

当社グループの取り組み

平成25年度からの3ヶ年中期経営計画

「Change & Challenge-更なる成長に向けて-」

基本方針に基づき、構造的な事業環境の変化にもスピード感をもって対応すべく、各事業課題の解決に向け取り組む。



建設資材など非化学部門は順調に進捗。

化学部門を取り巻く環境は、依然として厳しい状況が継続。

連結売上高

6,417億円

前期比：87億円減

(億円)

8,000

7,000

6,000

5,000

4,000

3,000

2,000

1,000

0

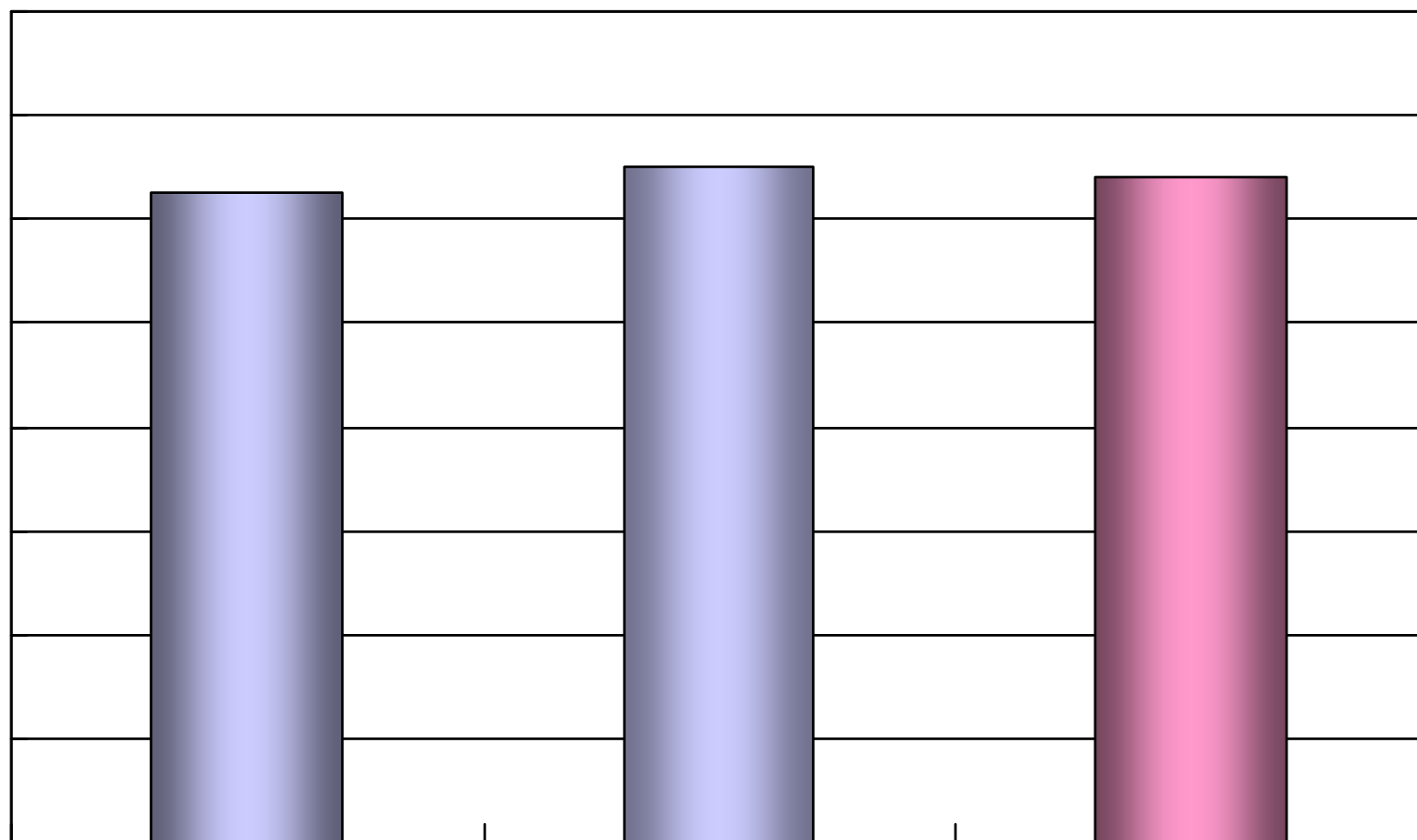
平成

24

25

26

(年度)



連結営業利益

241億円

前期比：2億円減

(億円)

600

500

400

300

200

100

0

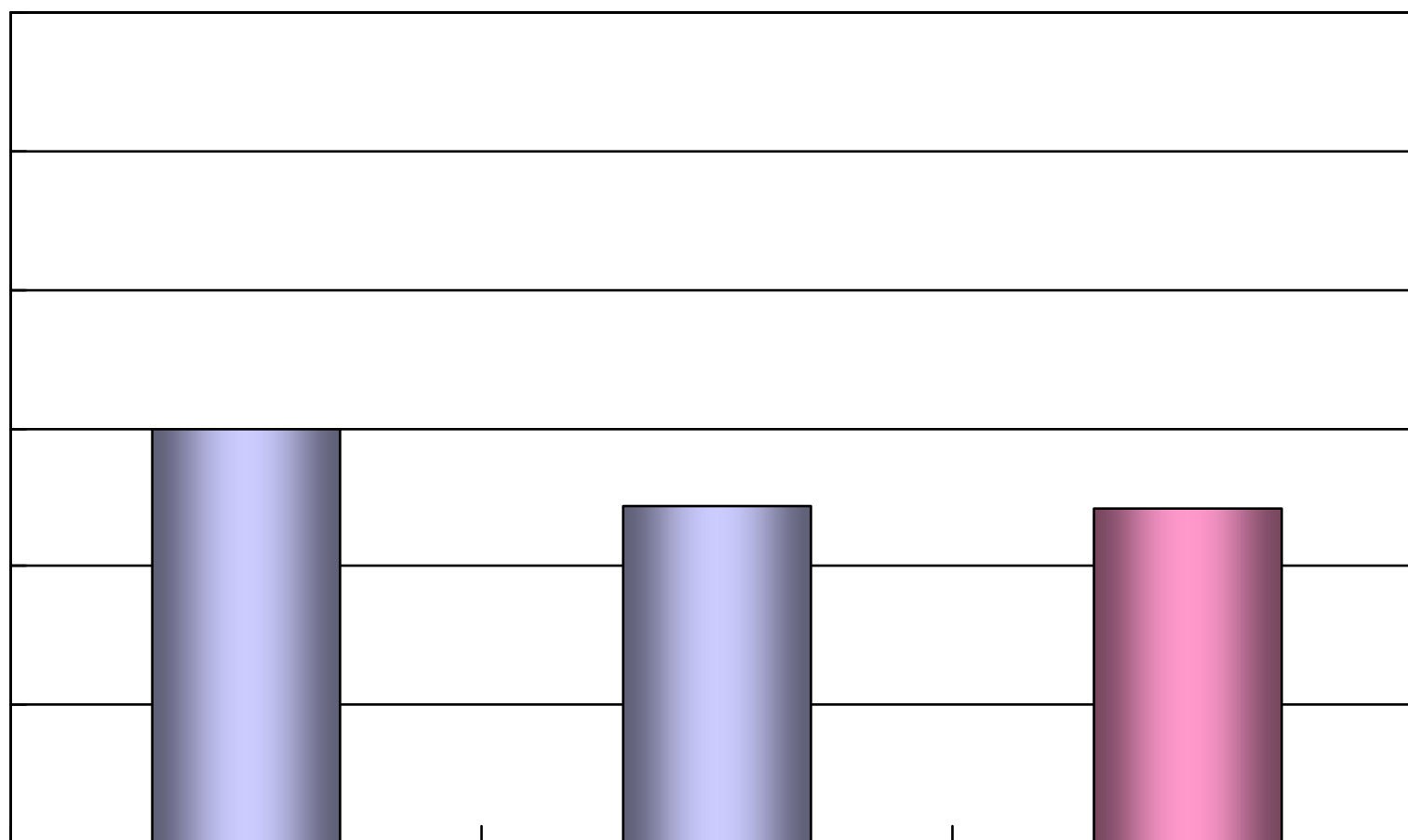
平成

24

25

26

(年度)



連結經常利益

232億円

前期比：45億円増

(億円)

600

500

400

300

200

100

0

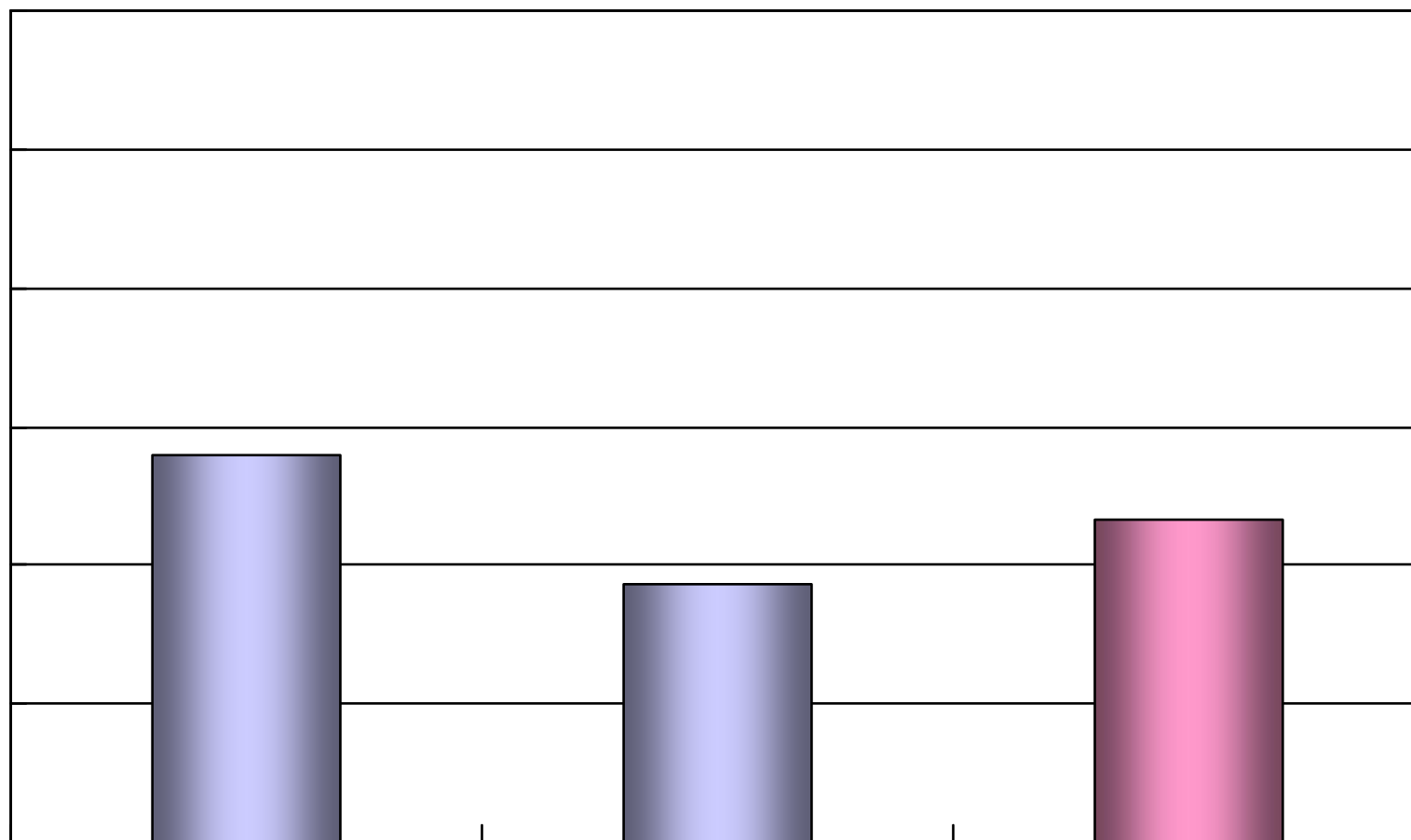
平成

24

25

26

(年度)



連結当期純利益

146億円

前期比：20億円増

(億円)

300

200

100

0

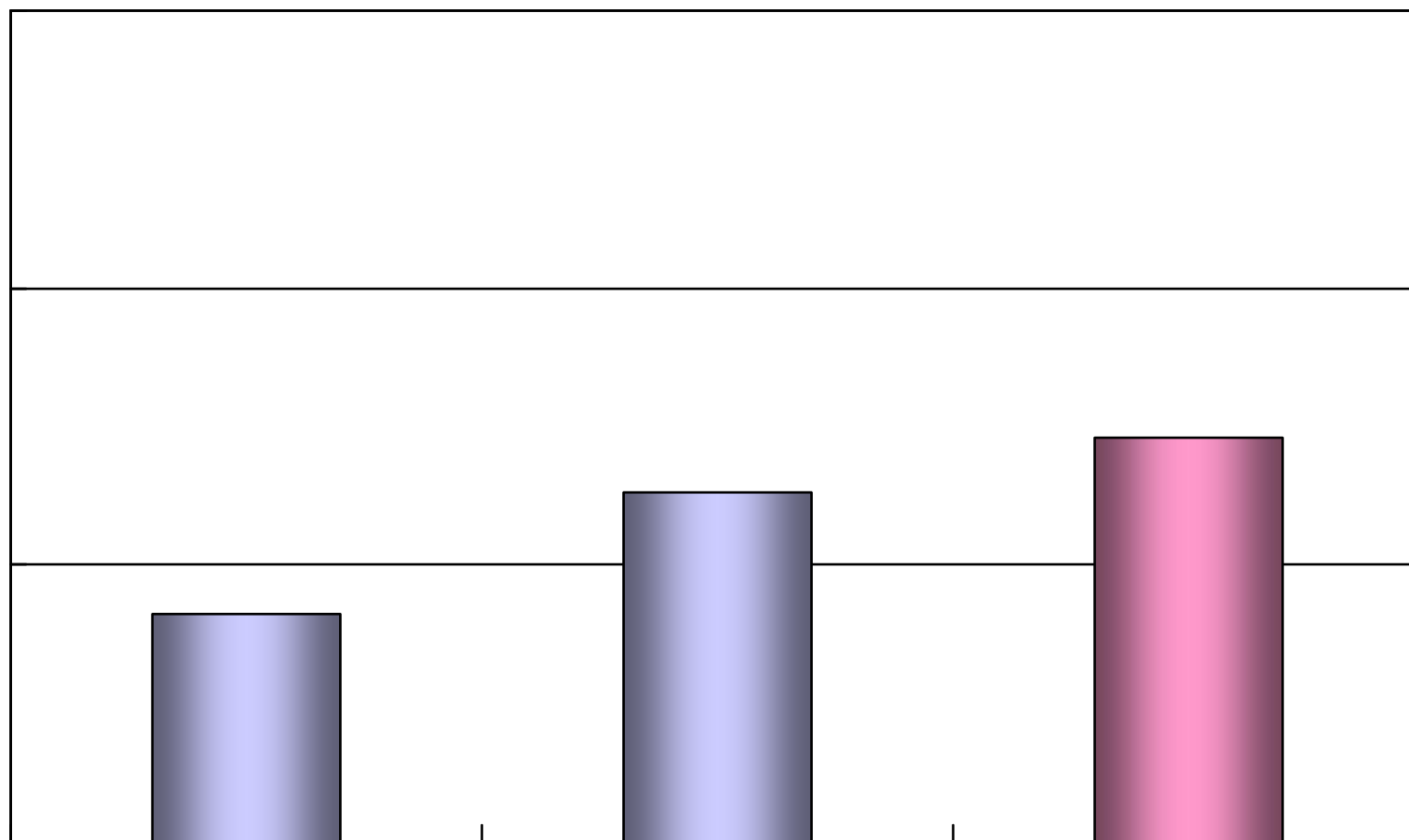
平成

24

25

26

(年度)



売上高（単独）

3,065億円

前期比：40億円減

(億円)

4,000

3,000

2,000

1,000

0

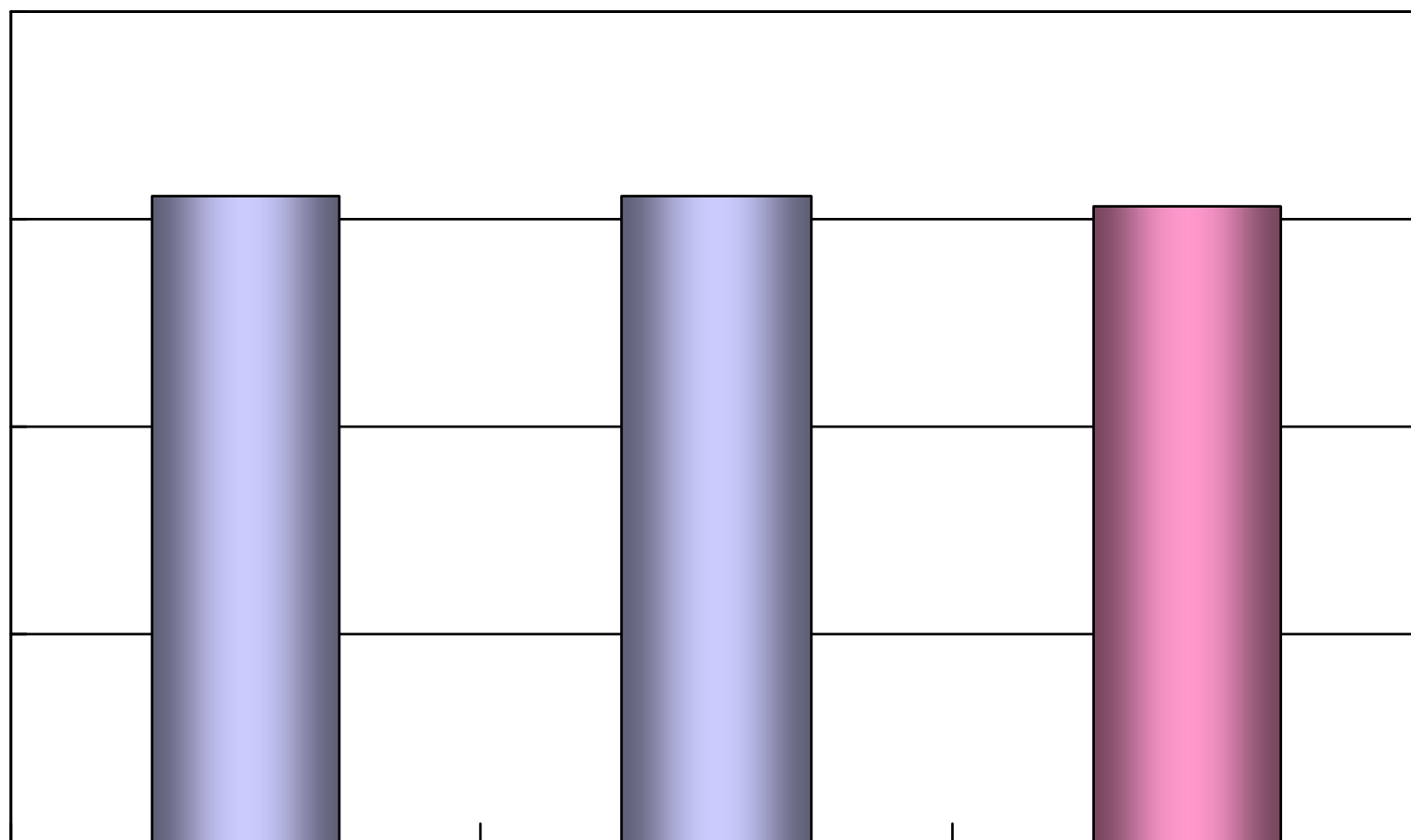
平成

24

25

26

(年度)



営業利益（単独）

148億円

前期比：48億円増

(億円)

300

250

200

150

100

50

0

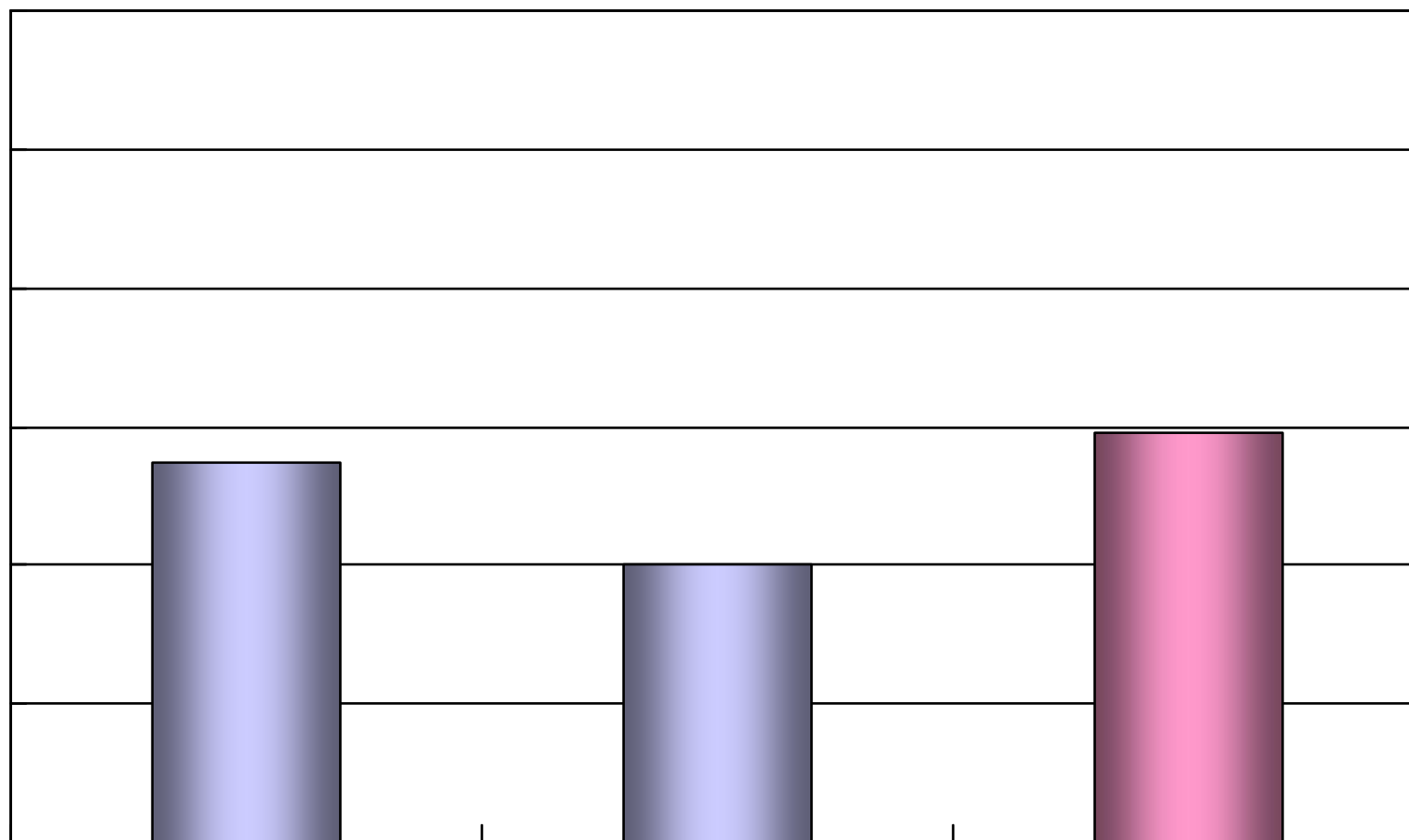
平成

24

25

26

(年度)



經常利益 (单独)

175億円

前期比：85億円増

(億円)

300

250

200

150

100

50

0

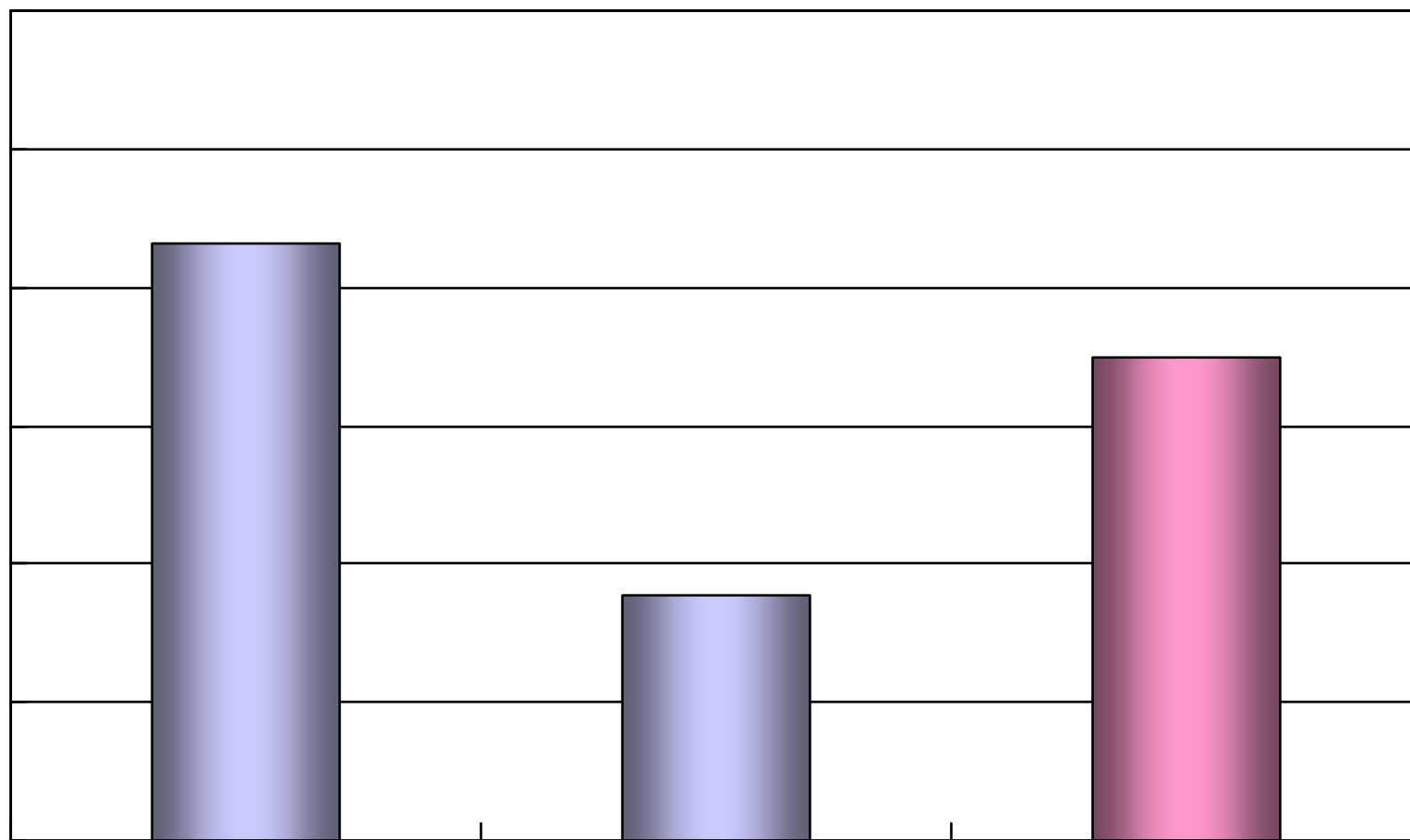
平成

24

25

26

(年度)



当期純利益 (单独)

82億円

前期比：17億円増

(億円)

125

100

75

50

25

0

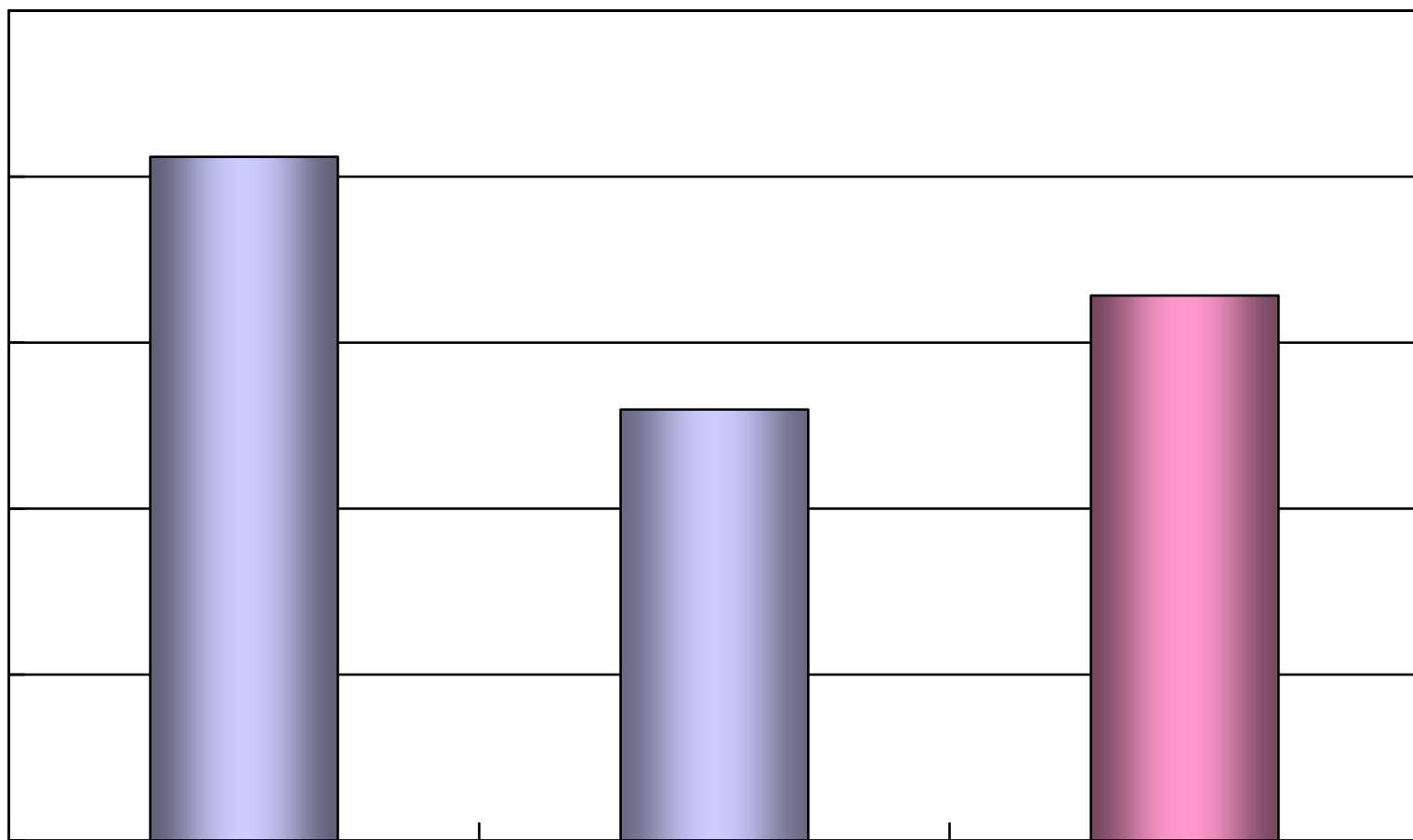
平成

24

25

26

(年度)



化成品・樹脂部門

機能品・ファイン部門

医薬部門

建設資材部門

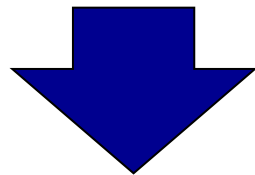
機械・金属成形部門

エネルギー・環境部門

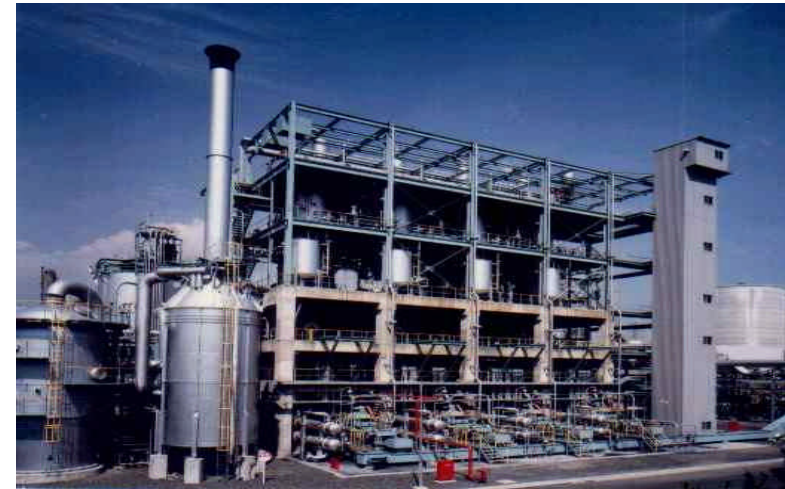
化成品・樹脂部門



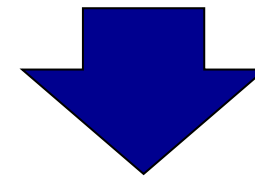
ナイロン樹脂



食品包装フィルム用途
を中心に出荷堅調



工業薬品



アンモニア製品等の
出荷が堅調

化成品・樹脂部門



カプロラクタム
(ナイロン原料)

- ・中国市場を中心に供給過多の状況が続く



市況の低迷

海外工場（タイ・スペイン）
での全面的なメンテナンス

アンモニア等副原料の高騰

堺工場での生産停止（昨年3月末）による
改善効果は予定通り実現

化成品・樹脂部門



出荷は堅調

ポリブタジエン
(合成ゴム)

化成品・樹脂部門

前期比：151億円減

連結売上高 2,154億円

前期比：3億円増

連結営業利益 11億円

化成品・樹脂部門

機能品・ファイン部門

医薬部門

建設資材部門

機械・金属成形部門

エネルギー・環境部門

機能品・ファイン部門



電解液



セパレーター

出荷は伸長

※両製品とも価格下落の影響を大きく受ける

機能品・ファイン部門



ファインケミカル製品



ポリイミドフィルム

※設備稼働に伴う
固定費増



分離膜

出荷は回復基調で推移

機能品・ファイン部門

前期比： 1億円増

連結売上高 632億円

前期比： 18億円減

連結営業利益 ▲22億円

化成品・樹脂部門

機能品・ファイン部門

医薬部門

建設資材部門

機械・金属成形部門

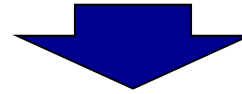
エネルギー・環境部門

医薬部門



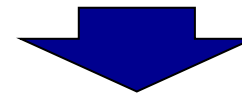
自社医薬品

血圧降下剤 原体



出荷は前期並み

抗アレルギー剤
抗血小板剤



流通在庫の調整局面にあり、
原体出荷は低調

医薬部門



【第四医薬品製造設備】

受託医薬品
原体・中間体



出荷は総じて
低調に推移

医薬部門

前期比：18億円減

連結売上高

78億円

前期比：7億円減

連結営業利益

9億円

化成品・樹脂部門

機能品・ファイン部門

医薬部門

建設資材部門

機械・金属成形部門

エネルギー・環境部門

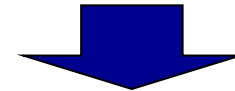
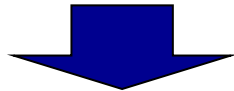
建設資材部門

セメント・生コン

建材製品



工事現場での人手不足などによる
着工遅れの影響



国内出荷は前期を下回る

建設資材部門

国内出荷

輸出

各種廃棄物
リサイクル事業

前期を
下回る

東南アジアを中心とした
旺盛な海外需要を
背景に好調を維持

伸長

全体として堅調に推移

建設資材部門

カルシア

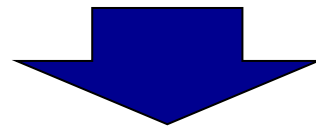


【生石灰】

マグネシア



【マグネシアクリンカー】



販売は鉄鋼向けを中心に堅調

建設資材部門

前期比：10億円減

連結売上高 2,224億円

前期比：15億円増

連結営業利益 170億円

建設資材部門

不振が続いていたサイディングボード事業
(外壁用ボード事業) の撤退
→ 本年3月にウベボード(株)を解散



- 採算の見込まれる波板事業 等
 - 宇部興産建材(株) (新規設立) に事業移管、本年4月に営業開始

化成品・樹脂部門

機能品・ファイン部門

医薬部門

建設資材部門

機械・金属成形部門

エネルギー・環境部門

機械・金属成形部門

産業機械
(豎型ミル、運搬機 等)



国内での新規設備・
老朽化更新投資



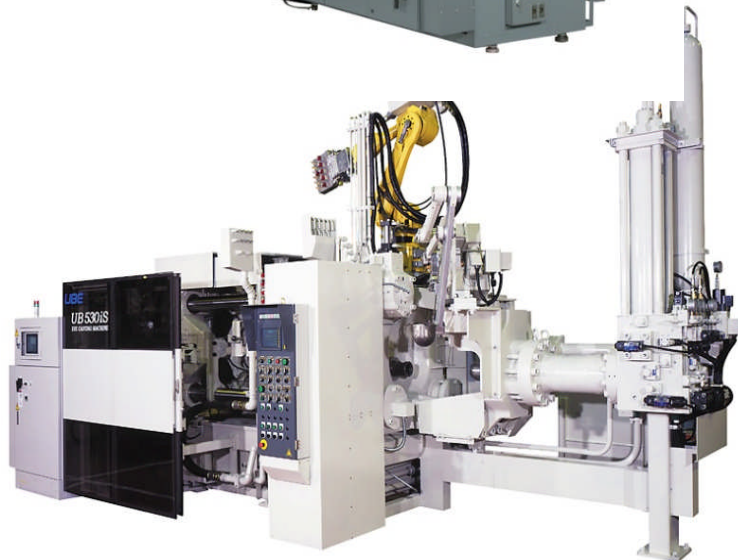
出荷は増加

機械・金属成形部門

成形機



日系ユーザーの新興国・
北米での新增設案件を
中心に出荷は堅調



比較的採算性の低い出
荷案件の影響を受ける

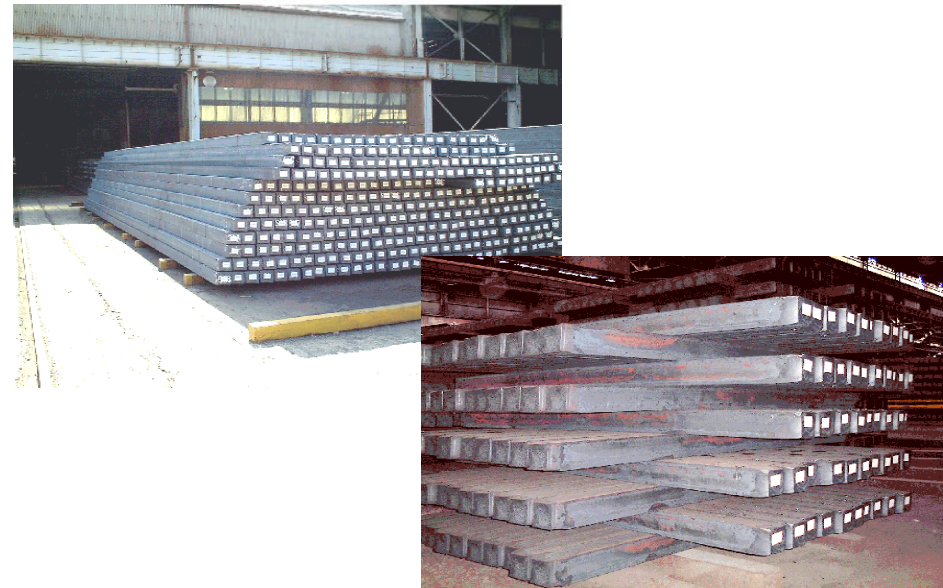
機械・金属成形部門

製品サービス事業



堅調

製鋼品



出荷は堅調

機械・金属成形部門

前期比：34億円増

連結売上高 789億円

前期比：1億円減

連結営業利益 43億円

化成品・樹脂部門

機能品・ファイン部門

医薬部門

建設資材部門

機械・金属成形部門

エネルギー・環境部門

エネルギー・環境部門

石炭事業



【沖の山コールセンター】（石炭中継基地）

販売炭の数量は堅調

コールセンターでの預り
炭取扱数量は前期を
下回る。

エネルギー・環境部門

電力事業



【216MW IPP発電所】

○ 自家発電所
定期修理の影響を受ける

○ IPP発電所
前期の定期修理に伴う
補修費増の影響なし

※設備トラブル復旧
復旧工事が順調に進み
昨年10月に定格出力
での送電を再開

エネルギー・環境部門

前期比：76億円増

連結売上高 667 億円

前期比：8億円増

連結営業利益 28 億円

その他部門

前期比：44億円増

連結売上高 332億円

前期比：2億円増

連結営業利益 12億円

資金調達の状況

- ❖ 自己資金
- ❖ 金融機関からの借入金
- ❖ 第10回無担保社債（100億円）
- ❖ 第11回無担保社債（100億円）

当期末連結有利子負債残高

前期末比 60億円減

2,397 億円

設備投資等の状況

- ◆ 生産設備の新增設
- ◆ 維持更改
- ◆ 省力化・合理化など

総額：425億円

当期に完成した主要設備

- ナイロン6増産設備
(化成品・樹脂部門 / スペイン)
- 機能膜 (セパレーター) 第2工場
(機能品・ファイン部門 / 堺工場)
- IPP発電設備復旧工事
(エネルギー・環境部門)

当期に建設中の主要設備

- ポリカーボネートジオール製造設備
(機能品・ファイン部門 / タイ)
- 大阪研究開発センター新設
- 石灰石鉱区開発工事
(建設資材部門 / 伊佐セメント工場)
- 排熱発電設備
(建設資材部門 / 苅田セメント工場)

連結貸借対照表

(億円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)	7,115	(負債の部)	4,219
流動資産	2,828	流動負債	2,395
固定資産	4,285	固定負債	1,824
有形固定資産	3,474	(純資産の部)	2,896
無形固定資産	53	株主資本	2,493
投資その他の資産	757	資本金	584
繰延資産	1	資本剰余金	384
		利益剰余金	1,533
		自己株式	△8
		その他の包括利益累計額	139
		新株予約権	5
		少数株主持分	257
資産合計	7,115	負債・純資産合計	7,115

連結損益計算書

(億円)

科目	金額
売上高	6,417
売上原価	△5,389
販売費及び一般管理費	△786
営業利益	241
営業外収益	89
営業外費用	△98
経常利益	232
特別利益	51
特別損失	△98
税金等調整前当期純利益	184
法人税、住民税及び事業税等	△43
少数株主利益	4
当期純利益	146

今後の経済情勢

国内景気の回復基調継続が期待される

【懸念材料】 世界景気の下振れリスク

中国をはじめとする新興国経済の先行き

米国・欧州における経済・財政政策の動向

原油など原燃料価格の先行き



不透明な事業環境が続くことが見込まれる

対処すべき課題

- 中期経営計画（平成25～27年度）
「Change & Challenge-更なる成長に向けて-」
⇒持続的な成長に向けた取組みを推進

- 当社グループのあるべき姿

非化学部門が収益基盤を一層強化しながら、差別化された化学部門を成長の原動力としてグループ全体の成長を図る

を目指し、様々な施策を推進

対処すべき課題

- 非化学部門
底堅い需要を背景に順調な進捗
- 化学部門
諸施策の効果発現に一定の時間を要していることなどから、計画との乖離が続く

化学部門の収益回復の早期化が
目下最大の課題

対処すべき課題

- 変化の激しい各事業の戦略見直し
- これまでの取り組みの一層のスピードアップ

グローバル展開

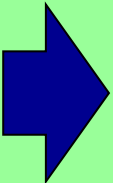
徹底したコストダウン

化学2部門統合による新体制の下、
(化成品・樹脂部門と機能品・ファイン部門の統合：本年4月)
化学事業の早期建て直しに全力で取り組む。

対処すべき課題

CSR（企業の社会的責任）

- ・コンプライアンス、リスク管理等の充実
⇒公正な企業活動の推進
- ・「共存同栄」の精神の下、社会との共生を目指す



株主や資本市場をはじめ、取引先・従業員・地域社会等、すべてのステークホルダーからの信認を深める

株主の皆様へのメッセージ

株主総会終了後

Change & Challenge

—更なる成長に向けて—

株主の皆様へのメッセージ

2015年6月26日（金）

**宇部興産株式会社
代表取締役社長 山本 謙**

● 化学部門の一定の回復が収益改善に寄与 (単位：億円)

項目	'14年度	'15年度	差異
売上高	6,417	6,850	433
営業利益	241	360	119
経常利益	232	320	88
親会社株主に帰属する 当期純利益	146	170	24
純有利子負債	2,027	1,950	△77
自己資本	2,633	2,750	117
配当 (円/株)	5.0	5.0	
配当性向	36%	31%	

2. '15年度業績予想 ー売上高・営業利益ー

UBE

(単位：億円)

事業部	売上高			営業利益		
	'14年度	'15年度	差異	'14年度	'15年度	差異
化学 ^{※1}	2,801	2,920	119	△9	95	104
医薬	78	95	17	9	15	6
建設資材	2,224	2,420	196	170	175	5
機械・金属成形	789	835	46	43	50	7
エネルギー・環境	667	725	58	28	30	2
その他	173	140	△33	11	10	△1
調整額 ^{※2}	△317	△285	32	△11	△15	△4
計	6,417	6,850	433	241	360	119

※1 15年4月より、化成品・樹脂と機能品・ファインを化学に統合しました。14年度実績については比較のため、新しい区分に組み替えています。

※2 セグメント間消去を含む。

UBEグループのあるべき姿

- 差別化された化学事業を中心に発展
- 多角化で経営環境の変化に対する安定性を確保

化学：成長の原動力

非化学：持続的収益基盤

- 組織統合により、化学部門は再建をスピードアップ
- 非化学部門は持続的収益基盤を強化
 - 建設資材：収益力強化の継続および内需、輸出の確実な取り込みと、フル生産の維持
 - 機械・金属成形：製品とサービスの一体運営を強化し、グローバルでの事業活動を加速
 - エネルギー・環境：新設発電所向け石炭需要の取り込み、再生可能エネルギーの拡充

化成品・樹脂カンパニーと機能品・ファインカンパニーを統合し、「化学カンパニー」へ

組織を一本化・大括り化し、化学部門の早急な業績回復を目指す

- 一元的な事業戦略・技術戦略を立案実行し、研究開発からビジネスに至る各機能をよりスピーディーに最大限発揮させる
- 化学部門全体を俯瞰した経営資源の最適配分により、事業の選択と集中を加速
- 組織の一本化・スリム化による業務効率の向上

トピックス（研究開発力の強化）

- 大阪研究開発センター新設
（2016年開所予定）
➡ 新商品創出の中心拠点へ



ナイロン・ラクタムチェーン：ナイロンの拡大戦略と高付加価値化へ

- 押出用途 更なる能力増強でグローバルNo. 1 へ
- 射出用途 世界供給体制を構築し、コンパウンド拡大へ
（自社生産・委託生産・M&Aなど）
- カプロラクタムは競争力あるナイロン原料として抜本的なコストダウンを実施
（製法変更・
硫安大粒化など）



トヨタ「MIRAI」の水素タンクライナーに
当社ナイロンが採用

合成ゴム（ポリブタジエン）：高機能グローバルNo. 1 へ

- 大手タイヤメーカーとの共同開発、特殊品化推進
- 顧客のグローバル展開や成長に応じた能力増強を継続

ポリイミドチェーン：新商品による拡販と新規用途の開拓

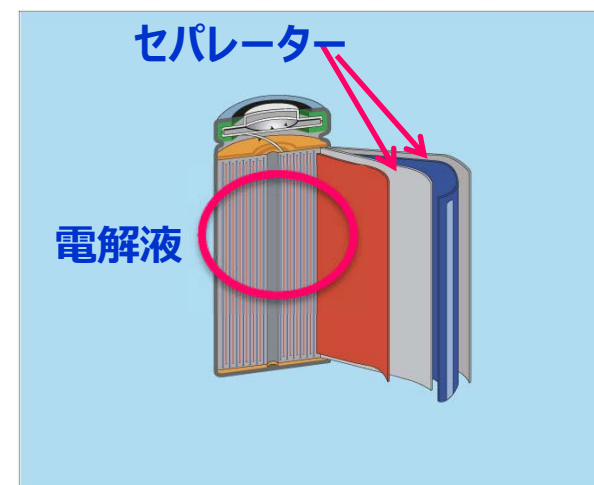
- **ポリイミド**：スマホ向けフィルム拡販に向け新商品の上市
フレキシブルディスプレイ用途の本格立ち上がり
- **分離膜**：航空機防爆用途など
新規分野の開拓



ポリイミド[®]使用例

電池材料：拡大する車載需要を確実に取り込む

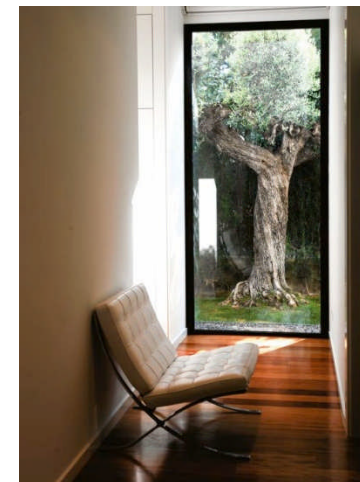
- **電解液**：遅れていた車載での採用開始
中国工場の稼働増
- **セパレーター**：
車載用に塗布型セパレーターの
本格出荷開始



リチウムイオン電池

ファイン事業：C1技術をベースにした事業の伸長

- 高級ポリウレタン原料製造を日本・スペインに次ぎタイで開始
- ライセンス事業の拡大
(ポリエステル原料・電解液原料)



自動車内装用・床材用ウレタン原料使用例

医薬事業：ビジネスモデルを発展させ 安定的成長軌道へ

- 自社医薬は、パイプラインの充実と既存品の適応症拡大
- 自社・受託に加え、ジェネリック原体の開発開始



自社医薬品 (抗血小板剤)

■ CSR（企業の社会的責任）への取り組み

- 収益力の持続的強化と健全な財務体質から企業価値を向上
- コンプライアンスやリスク管理を充実させ公正な企業活動推進

■ 持続可能な社会の実現に向けた温室効果ガスの削減

- 省エネ推進・省資源（廃棄物リサイクル拡大）などにより、更なる削減を推進
- 環境貢献型技術・製品の拡大により、サプライチェーン全体で削減に努める

■ 株主還元

- 安定配当の方針を堅持し、今後の業績改善による更なる向上を目指す

技術の翼 革新の心

Wings of technology
Spirit of innovation

UBE

本資料における将来の見通しに関する記載は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績はさまざまな要因の変化によって見通しと大きく異なる場合もあり得ますことをご了承願います。そのような要因としては、主要市場の経済状況、製品の需給、原燃料価格、金利、為替相場などがあります。但し、業績に影響を及ぼす要因はこれらに限定されるものではありません。本資料の著作権は当社に帰属します。本資料のいかなる部分も書面による当社の事前の承諾なく複製または転用などを行うことはできません。